

サイバーセキュリティ  
のための

# IoT機器等に対する 脆弱性検証にご協力いただける 中小企業を募集します

## 概要・ご協力いただいた場合のメリット

- 中小企業が開発・製造するIoT機器等に対して、**専門家による脆弱性検証を無償で実施**します
- 脆弱性検証を実施することで、機器に含まれる**脆弱性の有無を確認**でき、**機器におけるセキュリティ事故の発生可能性を低減**できるだけでなく、出荷後に脆弱性を修正することに対する**工数やコストの削減**につながります
- 脆弱性検証の結果明らかとなった脆弱性に対して、**検証を実施した専門家により対応策や改善策のご提案**も行います
- 本事業を通じて、**中小企業が保有する重要技術や重要情報が外部に明らかになることはありません**

## 対象となる「IoT機器等」の例



本事業では、産業用・一般消費者用問わず、ネットワークに常時接続される機器及び機器に使用される部品等を対象とします。  
IoT機器等のデータを収集・分析したり、制御を行うアプリケーション・ソフトウェアも対象とします。

企業募集については以下をご覧ください。

「開発段階におけるIoT機器の脆弱性検証促進事業」  
(経済産業省事業)においてIoT機器の脆弱性検証を  
希望する中小企業の募集のご案内について

[https://www.mri.co.jp/news/public\\_offering/20220425\\_2.html](https://www.mri.co.jp/news/public_offering/20220425_2.html)



<本事業に関するお問合せ先>

株式会社三菱総合研究所

サイバーセキュリティ戦略グループ

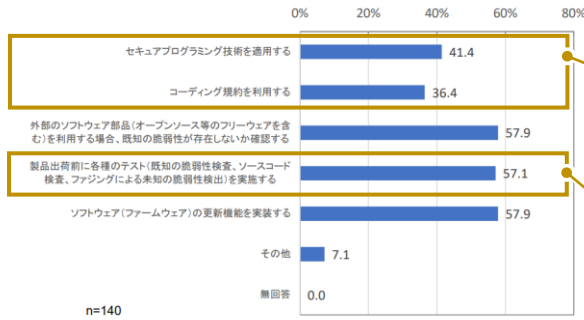
「開発段階におけるIoT機器の脆弱性検証促進事業」事務局

Tel : 03-6858-3578

Email : iot-sec@ml.mri.co.jp

# 多くの企業では、開発段階でのセキュリティ対策を実施せず、機器出荷前の検証も実施していません

機器の開発段階における脆弱性対策の考慮状況



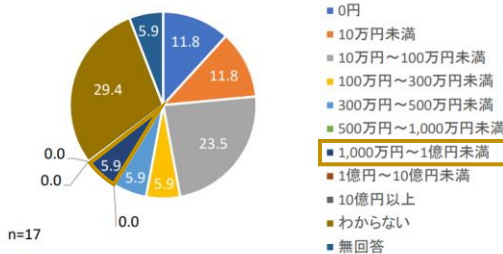
60%の企業が開発段階のセキュリティ対策を行っていない

40%の企業が製品出荷前の脆弱性検証を行っていない

IPA「IoT製品・サービス開発者におけるセキュリティ対策の現状と意識に関する報告書」(2017年)

## 機器に対する十分な脆弱性対策が実施されていないことで、1,000万円以上の損害につながった企業も存在します

機器に脆弱性が存在した際の金銭的な損害



脆弱性対策の不備により1,000万円～1億円の損害につながった企業も存在

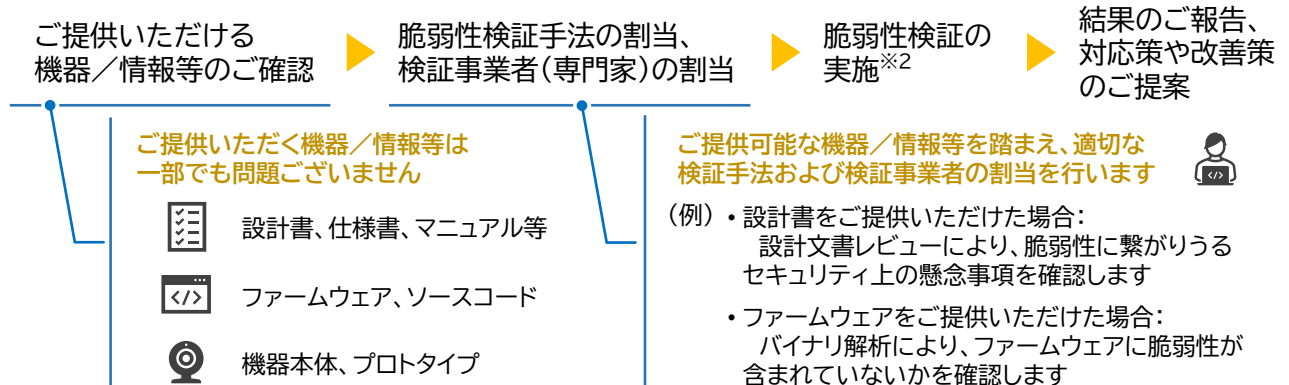
IPA「IoT製品・サービス開発者におけるセキュリティ対策の現状と意識に関する報告書」(2017年)

機器に脆弱性が残存することで、利用者による信頼低下や企業経営に対して影響を及ぼす可能性もあるため、開発段階において機器に対して脆弱性検証を行うことが重要です

本事業にご協力いただくことで...

- 通常100万円～700万円を要する脆弱性検証を無償で実施いただけます
- セキュリティ事故の発生可能性を低減できるほか、出荷後に脆弱性を修正することに対する工数やコストの削減につながります
- 明らかとなった脆弱性に対する対応策や改善策の提案を受けることが可能です<sup>※1</sup>

## 本事業における脆弱性検証の実施プロセス



<sup>※1</sup> 脆弱性の修正対応は応募いただいた中小企業様自身にて実施いただけます。

なお、脆弱性への対応にあたっては、中小企業庁「ものづくり補助金」等、別途補助金をご活用いただける可能性もございます。

<sup>※2</sup> 脆弱性検証は、機器に内在するすべての脆弱性を網羅的に確認できるものではありません。

また、脆弱性検証期間は1ヶ月～3ヶ月程度を予定しています。